

「合理的」と自己評価した人は合理的な思考を行うか

— 自尊感情の調整効果に着目して —

○ 福留広大・武田知也

(福山大学人間文化学部心理学科)

内藤・鈴木・坂本 (2004) は認知的経験的自己理論 (Cognitive Experiential Self-Theory: CEST, Epstein, 1994) に基づく、情報処理スタイル (合理性-直観性) 尺度を作成した。CEST では自尊感情維持のために行動が決定される (Epstein, 1994) とされ、内藤ら (2004) では新たに作成された尺度と自尊感情 (Self-Esteem: SE) 尺度との関連を検討している。その結果、合理性能力と SE で $r = .36$ 、合理性態度と SE で $r = .15$ 、直観性能力と SE で $r = .33$ 、直観性態度と SE で $r = .06$ という結果が報告されており、特に能力と SE の関連が得られることは妥当であると思われる。

本研究では認知処理スタイル尺度による自己評価が、実際のパフォーマンスを予測するか検討する。パフォーマンスの測定に使用するものは認知的熟慮性検査 (Cognitive Reflection Test: CRT; Frederick, 2005) であり、合理性の自己評価との正の関連が予想される。またこの影響について、SE による調整効果が得られる可能性について報告する。

方法

分析対象 認知的熟慮性検査の問題を初めて解いた私立大学生 192 名

調査時期 2020 年 10 月-2020 年 12 月

使用尺度 ローゼンバーグ自尊感情尺度 (RSES) 10 項 (Rosenberg, 1965; 山本・松井・山成, 1982)、情報処理スタイル (合理性-直観性) 尺度短縮版 24 項目 (内藤・鈴木・坂本, 2004)、認知的熟慮性検査 7 問 (Cognitive Reflection Test: CRT; Frederick, 2005; 原田・原田・須藤, 2018)

分析方法 分析ソフトに HAD17_102 (清水, 2016) を使用した。

結果

各変数の相関関係は、合理性能力と SE で $r = .37$ 、合理性態度と SE で $r = .21$ 、直観性能力と SE で $r = .35$ 、直観性態度と SE で $r = .13$ であった。また、CRT の正答数は合理性能力と $r = .24$ 、合理性態度と $r = .15$ 、直観性能力と $r = -.24$ 、直観性態度と $r = -.09$ であった。次に交互作用項を含む重回帰分析を行った結果、合理性能力と SE、交互作用項

を独立変数、従属変数を CRT 正答数とした場合に、交互作用が有意傾向であった ($\beta = .122, t = 1.734, df = 188, p = .084$)。単純傾斜の検定の結果 (Figure 1), SE+1SD において合理性能力の効果が有意であった ($\beta = .339, t = 3.544, df = 188, p < .001$)。SE-1SD では合理性の能力の効果は有意でなかった ($\beta = .133, t = 1.380, df = 188, p = .169$)。

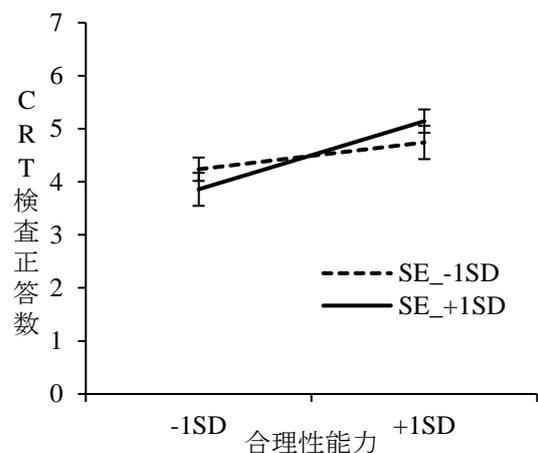


Fig.1 合理性能力と SE による正答数への影響

考察

情報処理スタイルと SE の関連の強さは先行研究とほぼ同等の結果が得られた。一方で、この 2 変数は単純な関連というよりも、これらの交互作用によって、実際の合理的判断を予測する可能性が示唆された。自尊感情が高い人の合理性の自己評価は、自尊感情が低い人の自己評価よりも、実際の能力を伴っているという意味において、より正確である可能性が示された。そもそも SE が維持される背景には、他者からの承認が想定される。もし、SE を維持したいと願っている人が、自信過剰に自分の認知処理スタイルを高く評価するであろうか。正しい自己評価は他者からの拒否を回避、承認を誘発するものであり、その結果 SE は維持されるかもしれない。

引用文献

内藤まゆみ・鈴木佳苗・坂元 章 (2004). 情報処理スタイル (合理性-直観性) 尺度の作成 パーソナリティ研究, 13, 67-78.